不動沢橋－慶応山荘コースで観察された昆虫　2018. 7. 8

159 回観察会で遭遇した昆虫の生態について調べてみた。いずれも一般的な昆虫で、垂直的な生息範囲が広いことは意外であった。近年は、居住圏の自然林伐採により出会う機会が少なくなってしまったのかもしれない。

キンモンガ

日本特産種。幼虫はリョウブの葉を食べる。黒地に薄黄色の紋が目立つガ。紋が白っぽい個体もいる。春と夏の 2 回出現し、平地にも山地にもいる。昼飛性。

イカリモンガ

昼飛性。翅前翅にある大きなオレンジ色の碇形状の紋が、和名の由来。幼虫はシダ植物のイノデ属の植物などを食草とする。

ジョウカイボシ

甲虫。花や葉上で待ち伏せし小昆虫を捕獲する肉食性。4月ごろ幼虫はコケや石の下で蛹になる。名前は平清盛の法名の淨海坊に由来する。分泌液は有毒。

ルリハナカミキリ

ミズナラに寄生する。ミドリカミキリやアオカミキリ、アオムシダマシに似ている。体色が雌はオレンジ、雄は淡青色であった。アオムシダマシの触角と脚はうすい黄褐色。

カメノコテントウ

甲虫の1種。日本産テントウムシ科の最大種。幼虫はクルミハムシなどの幼虫を食べ，成虫で樹皮下や岩の間で越冬。沢沿いに多く生息する。赤い警戒液を分泌する。卵は楕円形で美しいオレンジ色。

ドロハマキチョッキリ

甲虫チョッキリゾウムシの仲間で体色が美しい。中部以西のものは、上翅に金赤色班があり、中部以東のものは赤い紋がなく、緑色型と呼ばれる。イタドリ、ヤマブドウ、サルナシ、マンサク、コナラ、カエデ、ヤナギなどの葉を巻く。

ヨツボシモンシデムシ

ネズミやカエルや小鳥などの動物の死体に集まり、それを餌とする甲虫。名前の由来は、死体があると出てくるため、「死出虫」と名づけられたことによる。森の葬儀屋。死体を地中に埋めて肉団子に加工し、これを口移しで幼虫に与える習性をもち、親が子の世話をする「亜社会性昆虫」として知られる。ダニが着いているので接触注意。

ヤマトシリアゲムシ

肉食性で、死んだ昆虫の体液を吸う。生きた昆虫を捕食することはない。雄は求愛行動で雌に昆虫の死骸を与え、雌がそれを食べている間に交尾を達成する。昆虫としては珍しい給餌行動をとる。雄の腹端がサソリの様に上方に反りかえった姿が名の由来。先端は交尾器で攻撃性は無い。

ニワハンミョウ

肉食性の甲虫。平地から山地まで生息地は広い。近づくと飛び上がり振り返って誘うようなしぐさから、ハンミョウは「ミチオシエ」の通称がある。全身が茶色のニワハンミョウは土が黒い火山性草原などに多いとされるが、西吾妻ボランテアでも遭遇しており、確かにそのような場所を好むのかも知れない。